
編集後記

2004年の第1号をお届けいたします。本号も多岐にわたる内容の論文が集まり、寄稿いただきました諸先生に深く感謝申し上げます。今年は阪神淡路大震災（1995.1.17）から丸9年（10年目）になります。「天災は忘れた頃にやってくる」「備えあれば憂いなし」常に冷静に対応したいものです。

赤塚先生の論文「地震の町にきた地震」は大変貴重な、またリアル感に富んだ有意義な報告であり、個人的には興味深く読ませていただきました。多くの会員の皆様にとって「災害下位文化」という言葉はあまり聞き慣れないと思います。これは災害の規模からみて、被害を最小限に食い止める（すなわち被害を下位にする）文化が介在しているという意味だそうです。先の十勝沖地震（2003年）により北海道の浦河赤十字病院も被害を被りましたが、その迅速かつ献身的な活動により、円滑に復旧した過程がドキュメンタリー様に記載されています。常襲的に地震に見舞われる中で、地震に対する経験と対応力を身につけた「浦河」が、「災害下位文化」の成熟した地域として高く評価を受けている様子を文献的考察を加えて報告しています。ぜひ、一読すべき論文と思います。

また、昨年11月に開催されたシンポジウム「透析医療における Consensus Conference 2003」を特集し、透析患者の血圧異常の管理について5人の演者の先生方に執筆していただきました。日常臨床に直結した内容であり、シンポジウムに参加できなかった会員の皆様には見逃せない内容と思います。

本号より、シリーズものとして「透析医のひとりごと」を連載いたします。長年、透析患者を診療してこられた諸先輩に、日頃思っていることを枠にとらわれることなく表現してもらおうとする主旨です。気安く読んで頂ければうれしく思います。

本号も会員の皆様の透析医療のお役に立つことをお祈り申し上げます。

広報委員会委員長 久保和雄